

研究集会

縄文研究の地平 2013

—環状集落を見直す—

日時：2013年2月23日（土）
9:50～ 16:40(開場 9:30)
場所：東京都埋蔵文化財センター
会議室 (定員 120名)



アクセス：京王線・小田急線多摩センター駅歩5分
(会場に駐車場はありません)

東京都多摩市落合1丁目14-2

趣旨

主に縄文時代中期勝坂2式から加曽利E1式／曾利I式／大木8a式を対象に、環状集落は縄文社会の中で特殊な存在なのか否かについて、生態・社会・宗教・形成過程などの複眼的な視点から検討する。新地平編年を考慮した時間軸を設定し、研究史と現状を紹介した上で、環状集落の成立・形成と連関性の強い要素ないし現象が介在するのか否かを帰納的に問い直す。

AM9:50～AM10:30	趣旨説明	環状構造の集落の生態的・社会的・宗教的な評価に向けて —物質文化要素間の分析から立ちあげる— (山本典幸)
AM10:30～AM11:15	研究発表 1	環状集落を見直すための時間設定 (黒尾和久)
AM11:15～PM12:00	研究発表 2	北関東の貯蔵穴の分析 (塚本師也)
PM12:00～PM13:00	昼食休憩	
PM13:00～PM13:45	研究発表 3	甲信・関東の土器系統の分析 (今福利恵)
PM13:45～PM14:30	研究発表 4	武蔵野・多摩地域の土偶の分析 (中山真治)
PM14:30～PM15:15	研究発表 5	南関東の集落形成過程の分析 (小林謙一)
PM15:15～PM15:25	休憩	
PM15:25～PM16:30	討論・質問・コメント	
PM16:30～PM16:40	事務連絡・今年度の予定告知	
PM:16:40	終会	
PM17:00～PM19:00	懇親会 (京王・小田急多摩センター駅周辺)	

参加費無料・申し込み不要

問い合わせ先 小林謙一(中央大学文学部) kobayashikenichi22@gmail.com